



〔備前国図〕



〔上東郡図〕

岡山藩の郡・村と藩政

令和5年度企画展 池田家文庫絵図展

2023 IKEDAKEBUNKO EZUTEN
District/Village and Governance of Okayama Han

- 
岡山大学附属図書館
Okayama University Libraries
- 
岡山シティミュージアム
Okayama City Museum
- 
林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

令和5年度池田家文庫絵図展「岡山藩の郡・村と藩政」図録 正誤表

頁	番号	箇所	誤	正
18	48	解説 12-13 行目	天保4年～嘉永元年（ <u>1835</u> ～1848）	保4年～嘉永元年（ <u>1833</u> ～1848）

令和5年度
企画展

池田家文庫絵図展

岡山藩の郡・村と藩政

District / Village and Governance of Okayama Han

- 会 期 令和5年10月7日(土)～11月5日(日)
- 会 場 岡山シティミュージアム 5階展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 共 催 林原美術館
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

池田家文庫は、岡山大学附属図書館で保存・公開されている岡山藩池田家の藩政資料です。特に絵図類は多種多様にわたります。折しも昨年改修されたかつての池田家の居城・岡山城では、天守の展示も一新され、池田家文庫絵図の画像がおおいに活用されています。

その絵図類を中心に展示するのが池田家文庫絵図展で、先人の歴史を繙き、岡山の誇りや成立ちの特徴を感じていただけるよう努めています。

この展覧会は岡山大学附属図書館で開催が始まり、その後、岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づき、平成17年に開館した岡山シティミュージアム（旧岡山市デジタルミュージアム）を会場として毎年共同で開催しています。

また令和元年からは、林原美術館も本展に加わり、池田家伝来の貴重な資料を出展いただいています。

毎年様々なテーマを取り上げている本展覧会ですが、19回目の共同開催となる本年は、「岡山藩の郡・村と藩政」と題して開催します。

鳥取から転封後の初代藩主・池田光政は自らの政治改革の中で、藩士の教育だけでなく郡部や村のリーダーとなる人々の育成にも努めました。そうした岡山藩領の郡・村の景観と人々の暮らしに焦点をあてます。郡絵図、村絵図や地域での行政に関わる文書など岡山藩領の地域社会と藩政の関わりを示す興味深い資料を展示します。

この池田家文庫絵図展が、歴史理解と郷土愛を高める一助となると共に、池田家文庫という地域共有の財産を今後も継承していく契機となることを願ってやみません。

2023年10月7日

岡山大学附属図書館
館長 甲賀 研一郎
岡山シティミュージアム
館長 小野田 伸

関連行事

Event

オープニングトーク

日時 令和5年10月7日(土) 午前10時10分～午前10時40分
場所 岡山シティミュージアム 5階 展示室
講師 岡山大学 学術研究院社会文化科学学域 講師 東野 将伸 氏

講演会「近世の地域社会と藩政 — 宗門改と人の把握 —」

日時 令和5年10月28日(土) 午後2時～午後4時
場所 岡山シティミュージアム 4階 講義室
講師 京都府立大学 文学部歴史学科 教授 東昇 氏

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが令和5年10月7日(土)～11月5日(日)の会期で開催する「企画展 池田家文庫絵図展『岡山藩の郡・村と藩政』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は岡山大学附属図書館所蔵の資料は図版番号、資料名、頁数、年代、池田家文庫整理番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。原名のないものや原名が長文に及んでいるものについては内容に相当と思われる題名を選んで与え、〔 〕を付けて区別した。林原美術館収蔵の資料には林1から始まる番号を付し、資料名、頁数、年代、林原美術館収蔵品番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。林1、2の写真は林原美術館の提供による。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学学術研究院社会文化科学学域講師 東野将伸が執筆した。林1、2については林原美術館の提供による。本書の編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

I	令和5年度 池田家文庫絵図展 「岡山藩の郡・村と藩政」解説	1
II	出展資料解説	3
III	出展資料目録	20
IV	池田家文庫絵図展・記念講演会等開催記録	21

はじめに

岡山藩は備前国全域と備中国の一部を所領としており、元和元年（1615）以降の朱印高は31万5200石であった。この朱印高はその後変更されることはなかったが、藩内に目を向けると、岡山平野や児島湾周辺を中心として多くの新田開発がなされていた。池田家文庫には、広大な領知の支配や開発状況の把握が作成目的であったとみられる郡絵図、村・新田を描いた絵図が多く現存している。一方で、池田家文庫の文書類は、村や町が提出したものよりも藩側で作成されたものを中心として構成されている印象を受けるが、現存史料の分析を通じて、各時期の地方支配の内容をある程度復元することができる。

過去の池田家文庫貴重資料展（於：岡山大学附属図書館）・池田家文庫絵図展では、平成14年（2002）度に「開けゆく岡山平野：岡山藩の新田開発（1）」、同15年（2003）度に「新田開発をめぐる争い：岡山藩の新田開発（2）」をはじめとして、岡山藩領の特質や開発の過程、これと関わる藩政を取り上げてきた。今年度の展示では、岡山藩領の様相を示す絵図・文書に加えて、領内の土地開発や藩政運営に活躍した人々の動向を示す史料も取り上げた。本展示を通じて、岡山藩領の変化と人々の活動の軌跡を知っていただければ幸いである。

(1) 国絵図・郡絵図と藩政

備前国・備中国などの国を描いた国絵図は、近世初頭以来、幕府よりたびたび作成と提出を命じられ、池田家文庫にはこの時に提出分と合わせて作成された絵図が現存している。各郡を描いた郡絵図は、幕府など外向けのものではなく、実際の藩政に活用されたものであったとみられる。郡絵図の中には様々な地域情報―藩内独自の石高、水利や交通の情報、地域の有力者についての情報などが書き込まれているものがみられる。岡山藩初代藩主池田光政（1609～1682）がこれらの郡絵図を参照し、時には地域の有力者の情報などについて加筆を行っていたことも指摘されており、藩政運営の中でこれらの情報が利用されていたとみられる。

郡絵図と同様に、各郡の状況をまとめた帳簿類が多く現存しており、備前国津高郡の村高や年貢に関する史料、同国邑久郡の石高・人口・領民の職業構成などを記した史料を出展している。これ以外にも、地域の様々な情報を記した史料が現存しており、村々の石高や年貢量などの藩政・藩財政に関わる情報を得ることができる。

(2) 所領支配と領民

岡山藩の地方支配（郡方支配）は、郡代を頂点とする郡方役人によって担われ、岡山城下の郡会所を拠点として実施された。地方支配を担当する岡山藩士は、一時期を除いて岡山城下および近郊で居住・勤務していた。そのため、在地有力者が登用された在下方役人、各郡に数名おかれた大庄屋（時期によっては十村肝煎）、名主をはじめとする各村の村役人が、現地での様々な実務を担っていた。

所領支配にあたり、特に注意された項目が「土地」と「人」である。前者については、「検地帳」をはじめとする土地台帳をもとに各村の年貢が決定されており、村高や年貢の量・率は村・領主双方の関心事であった。後者について、領民の宗派や世帯構成の調査が定期的に行われており、各世帯の状況を書き留めた史料がいわゆる「宗門改帳」である。今年度は、備前国児島郡の萩野家文書（同郡味野村）の「宗門改帳」とその初期段階の帳簿を複数出展している。東昇氏の研究によると、岡山藩の「宗門改帳」は、夫役台帳としての「人付帳」（「人馬帳」）を前史とする。その後、

寛文5年(1665)の全国的な宗門改制度の成立に伴い、宗教政策を目的とした帳面へと整備されていき、17世紀末～18世紀前期以降には徐々に戸籍制度のための帳面へとその性格が変化していくとされている。

池田家文庫には他所領の村を描いた絵図も残存しており、その一例として、本展では慶応4年(1868)に作成された旧備中松山藩領の村絵図2点を出展している。これは備中松山藩が旧幕府側に立ったことを受け、岡山藩が同藩領と備中松山城を接収した際に作成されたものとみられる。この他にも岡山藩領と境を接する所領を描いた絵図類が複数残存しており、池田家文庫からは岡山藩以外の所領の情報も得ることができる。

(3) 土地開発と藩政

17世紀には戦乱の終結と江戸幕府のもとでの「平和」を背景として、列島全域において土地開発が飛躍的に進み、人口も急激に増加した。その後、18世紀以降には土地開発・人口増加はともにそれまでと比べて停滞・あるいは増加ペースを落とすことになるが、そのような中でも岡山藩領では児島湾周辺や備中国との国境付近を中心として、幕末期まで新田開発が行われていた。

池田家文庫の絵図・文書類からは、新田開発にあたって地形の把握や実地の綿密な調査が行われたことがわかる。これらの中には備前・備中間での境界争論の際に作成されたものも多く、領主間・領民間におけるせめぎ合いのもと、新田開発がなされていた。安政元年(1854)「郷村帳奥新田改出」によると、新田および「改出」として、同年までに岡山藩領全域では16万石を超える石高の増加があったことが記されている。

本展では、このような新田開発に携わった有力者として、備前国児島郡味野村の野崎家に関わる史料を取り上げている。同家の武左衛門は文政年間(1818～1830)以降に複数の塩田開発を行い、嘉永期には福田新田(児島郡)の開発を主導、その功績から同新田5ヶ村の大庄屋に任じられている。また、武左衛門および孫の武吉郎は、岡山藩への巨額の献金に加えて、幕末期の財政運営に深く関与しており、武吉郎は藩の融通方下役などに任じられている。

以上の通り、藩側は領内の「土地」と「人」を中心とした把握を行うとともに、地域の有力者を取り込む中で藩政運営を実現していた。その一方で、地域では土地開発や様々な産業への自生的な取り組みもみられ、村や地域での様々な「自治」的活動は、江戸時代の地域社会を特徴付けるものともいえる。藩・領民双方による日々の取り組みの中で、江戸時代の藩政や地域社会は成り立っていたのである。

岡山大学学術研究院社会文化科学学域 講師 東野将伸

〔参考文献〕

- 倉地克直『全集日本の歴史 第11巻 徳川社会のゆらぎ』(小学館、2008年)
倉地克直『絵図と徳川社会 岡山藩池田家文庫絵図をよむ』(吉川弘文館、2018年)
倉地克直『池田綱政 元禄時代を生きた岡山藩主』(吉川弘文館、2019年)
谷口澄夫『岡山藩政史の研究』(塙書房、1964年)
東昇「宗門改帳の作成—岡山藩の宗門改帳の変遷—」(『岡山地方史研究』82、1997年)
東野将伸「野崎武左衛門の経済・政治活動」(公益財団法人山陽放送学術文化・スポーツ振興財団編集・発行『近代岡山 遺産に挑んだ人々』、2022年)
藤井学・狩野久・竹林榮一・倉地克直・前田昌義『岡山県の歴史』(山川出版社、2000年)
岡山県史編纂委員会編『岡山県史』第六巻近世Ⅰ、第七巻近世Ⅱ、第八巻近世Ⅲ、第九巻近世Ⅳ、第十巻近代Ⅰ(岡山県、1984～1989年)
邑久町史編纂委員会編『邑久町史史料編(別冊) 邑久郡大手鑑』(瀬戸内市、2008年)
岡山県歴史人物事典編纂委員会編『岡山県歴史人物事典』(山陽新聞社、1994年)
国史大辞典編纂委員会編『国史大辞典』全15巻(吉川弘文館、1979年～1997年)
有限会社平凡社地方資料センター編『日本歴史地名大系34巻 岡山県の地名』(平凡社、1988年)、同編『日本歴史地名大系29巻 兵庫県の地名』(平凡社、1999年)

【国絵図・郡絵図と藩政】

1 〔備前国図〕

1 幅 (慶長年間〈1596～1615〉)
T1-5 329.0 × 280.7

現在知られている最も古い備前国の絵図である。絵画的な古い画風で描かれており、慶長時代の絵図に間違いはないが、江戸幕府が作成を命じた慶長の国絵図との関係は不明である。岡山城下町は、天守閣や堀など絵じて川西の景観は正確だが、川東は立派過ぎて現実離れしている。下津井城・金川城・八塔寺などの絵画的表現も目を引く。



2 備前国絵図

1 枚 明和2年(1765)11月
T1-2 163.2 × 199.8

岡山藩5代藩主治政の家督相続にあたって幕府から派遣された監使(国目付)の参観に提供した元禄国絵図の縮図である。縮尺はおよそ60%だが、正徳期のものに比べてやや小振りで簡略な仕様である。松平内蔵頭は治政のことで、前年の5月10日に父宗政の遺領を相続している。

3 備中国御絵図領地入組之図

1 枚 元禄2～同6年(1689～1693)頃カ
T1-33 226.0 × 156.1

「御領分之村々ハ白地にて御座候」とある通り、岡山藩の村は白地で示されており、中には黄色地に「池田信濃守」と記された鴨方藩領の村々もみられる。主な航路や道が赤色、河川は青色で示されており、さらに笠岡等にあった古城の情報など、地理に関する様々な情報を知ることができる。備中松山城の城主が「水谷出羽守」(勝美〈1663～1693〉、1689年以降備中松山藩主)であることから、元禄2～同6年頃の作成とみられる。



4 光政公領地之目録

1通 寛文4年(1664)4月5日
B1-31 40.2 × 210.4

4代将軍徳川家綱が諸領主に対して一斉に朱印状を發給した寛文印知の際、合わせて出された領知目録の写しである。差出は大名領を担当した奉行の永井伊賀守(尚庸)・小笠原山城守(長矩)、宛所は松平新太郎(池田光政)である。備前国と備中国の岡山藩領の朱印高31万5200石について、郡や村数の情報が記されている。



5 上東郡図

1枚 (17世紀中後期カ)
T2-77 193.0 × 143.8

余白部分には「上東郡総図」とあり、その横に郡の概況が箇条書きに記されている。郡内の道筋や用水の描写は特に詳しい。余白部分には「御用も可調(ととのうべき)者」として9人が書き上げられている。この部分の文字は、図中や余白部分の他の文字とは異なっており、郡奉行からの情報提供にもとづいて光政自身が書き付けたもののように見える。



6 下道郡図

1鋪 正保2年(1645)6月
T2-94 111.4 × 72.4

備中国下道郡に陣屋を置いていた岡田藩が作成した絵図。余白部分の領知目録に続けて、凡例が「ろくせうは山／こんせうハ川／くろき筋郡境／朱引ハ道／かき色ハ芝山／うすろくせうハ松山／朱の角ハ伊東甚太郎領知(注：岡田藩)／黄の角ハ水谷伊勢守殿御領知(注：備中松山藩)／あさき角ハ松平新太郎殿御領知(注：岡山藩)」と記されている。郡境は目印になる建物などとともに墨線ではっきり引かれている。



7 和気郡御絵図

1枚 (年月日未詳)
T2-87 188.2 × 183.8

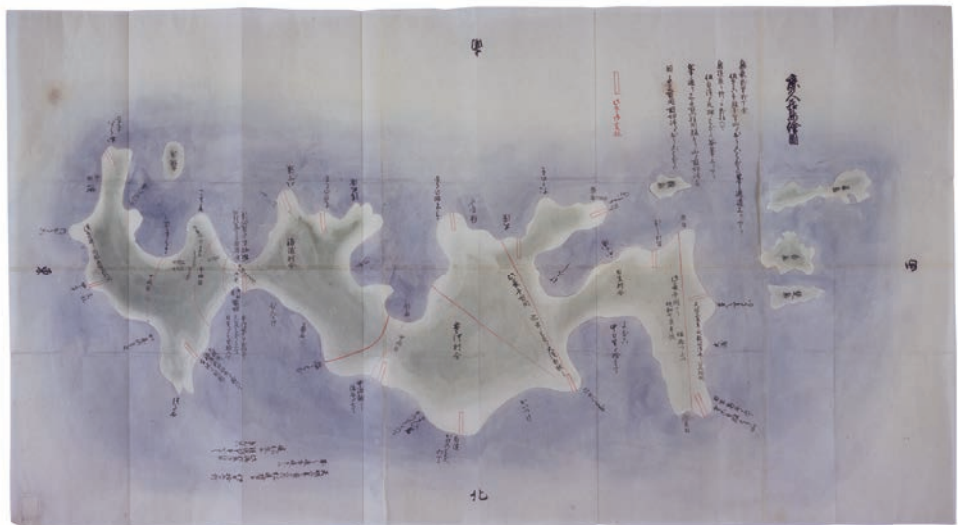
備前国和気郡を描いた絵図であり、街道や交通、河川に関する事象などが詳細に描き込まれている。主な古城の位置に城主名を記した付紙が貼られている点は特徴的であり、当時の古城への認識がうかがえる点は興味深い。



8 鹿久居島絵図

1枚 (天保年間〈1830～1843〉カ)
T2-65 52.8 × 97.4

備前国和気郡の鹿久居島を描いた絵図である。日生諸島は好漁場であったこともあり、同島周辺でも漁業をめぐる争論がたびたび発生していた。島内には「御船着」や「御定杭」がみられ、さらに島の東側が「福浦村分」、中央部が「寒河村分」、西側が「日生村分」とされている。幕末期には榊・松・柴などが採取され、上記の村々から運上銀が支払われていたことから、村ごとの区域が絵図に記されたものとみられる。



9 津高郡建部之図

1枚 (年月日未詳)
T2-117 93.4 × 105.4



10 備前国津高郡建部郷御国境絵図

1枚 (幕末維新时期カ)
T2-118 54.4 × 116.1

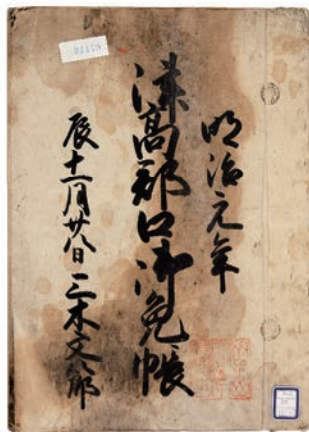
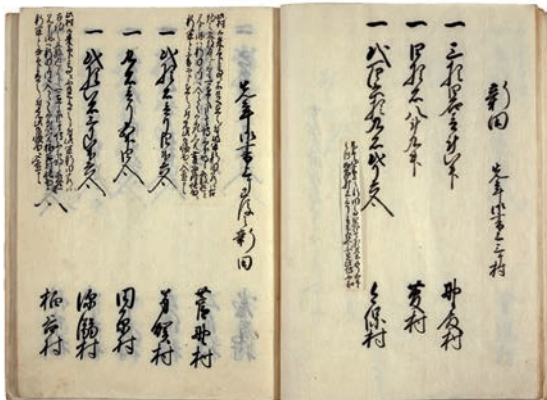


9、10はともに備前国津高郡建部郷（建部村）を描いた図である。旭川を挟んで西岸に建部郷、東岸に美作国久米南条郡が描かれている。建部には岡山藩家老建部池田家の陣屋が置かれており、10の左側（南）に描かれている「御屋舗」がこれにあたる。西岸には「新町」、東岸には「福渡町家」の町並みがともに街道沿いにみられる。川沿いに「大砲場」、山頂に「遠見」といった軍事施設があることから、10は幕末維新时期における防衛体制の整備に関わって描かれたものとみられる。

11 津高郡改出・新田・斗代上帳

竪1冊 貞享元年(1684)5月
B3-2-3 28.4 × 20.8

「津高郡高目録」・「津高郡御朱印高ニ残高不足帳」・「津高郡御朱印高改出シ年々開田畠方引高指引帳」とともに合綴されていた帳簿のうちの1点である。備前国津高郡の中で検地等によって改め登録された土地、新田として開発された土地、斗代(土地1反あたりの公定収穫高)を高く設定し直された土地が記されており、新しく公的に把握された石高とその内訳がまとめられている。展示箇所では、菅野村・芳賀村等の新田石高が記されている。



12 津高郡口御免帳

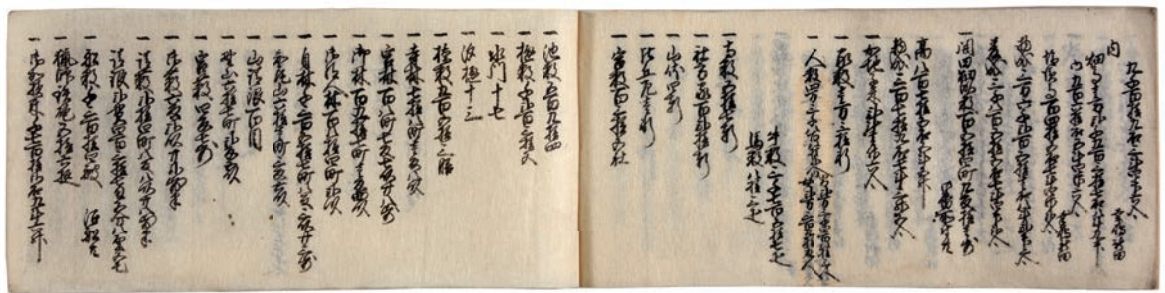
竪1冊 明治元年(1868)
B2-26 31.1 × 22.5

津高郡各村の村高・引高(年貢の対象とならない高)・年貢率などを記した帳簿である。展示箇所は一宮村(現在の岡山市北区一宮)についての記載箇所である。同村には酒折宮(現在の岡山神社)・一宮(吉備津彦神社)等、複数の寺社領があったことがわかる。

13 邑久郡大手鑑

横半1冊 (万延元年(1860)頃) B3-107 9.0 × 20.3

備前国南東部の邑久郡について、各村の村高・人口・産物などの詳細な情報が記されている。記述内容から、万延元年(1860)頃の状況を記したものとみられる。手荷物や懐中に収まるサイズであり、このような帳簿が藩役人の巡見の際などに携帯されていた可能性もあるとみられる。展示箇所は物成や人口・家数などの集計を記した部分である。



14 〔児島郡図〕

1枚 万治4年(寛文元(1661))5月12日 T2-90 94.4 × 218.8

備前国児島郡を描いた絵図である。絵図からはみ出すように貼られた書付には、端裏に「児島人書付」と書かれている。この書付には各村の庄屋とその子の年齢などが記されており、藩側が村運営にあたる人物を把握しようとしたとみられる。後筆で「十」「廿」「卅」「合卅一人」と書かれた文字は本文とは異筆であり、端裏の文字と同じで池田光政の筆とみられる。



15 内海(児島湾)絵図

1枚 (年月日未詳)
T2-67 54.2 × 120.1

備前国の児島湾周辺を描いた図である。桃色の箇所は沖新田、大福新田、高沼新田等の新田であり、新田と海の間には干潟とみられる区画が広がっている。北東方向では「岡山川」(旭川)、「西大寺川」(吉井川)が児島湾に流れ込んでいる。

16 児島郡下津井村海面并湊内堀古波戸仕継願上絵図

1枚 (年月日未詳) T8-12 47.4 × 99.3

下津井港の北に接する山上から、南に向いて瀬戸内海を眺望した様を描いた図である。縮尺や方位については、実際の様子からかなりデフォルメされている。図の中央右寄りにみえる「宮山」は現在の下津井祇園神社を指し、図右側の灯籠堂は現在の灯籠崎付近にあったものとみられる。塩飽諸島の島々や鷲羽山も描かれており、所々に「石取場」とあることから、この周辺一帯で採石が行われていたことがわかる。

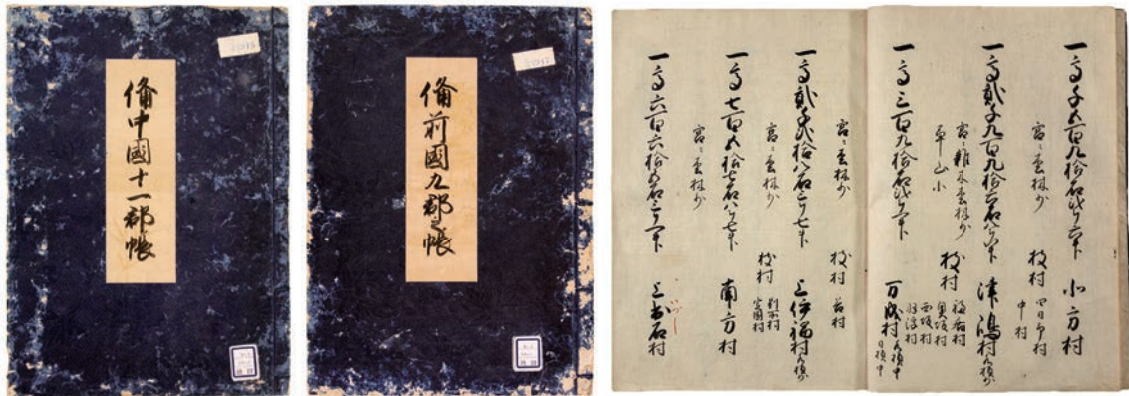


【所領支配と村絵図】

17 光政公御代中備前備中両国古高帳

全4冊のうち豎2冊 (17世紀中期) B3-34-1・2 30.7 × 22.6

池田光政治政期の領知村々の状況を記した帳簿である。備前国・備中国それぞれの村の名称・石高・草山等の状況・枝村の名称等が記されている。展示箇所は、「備前国九郡之帳」と表題がある帳簿のうち、三野(御野)郡北方村・津嶋村・万成村・上伊福村・南方村・上出石村が記された箇所である。いずれの村も岡山城下の北および北西の地域に位置しており、村名が現在の地名に引き継がれている。



18 備前国備中国之内 御郡々村数家数并男女人数 宝永四丁亥歳六月十五日有人改帳

豎1冊 宝永4年(1707)10月23日 L1-16 31.4 × 22.2

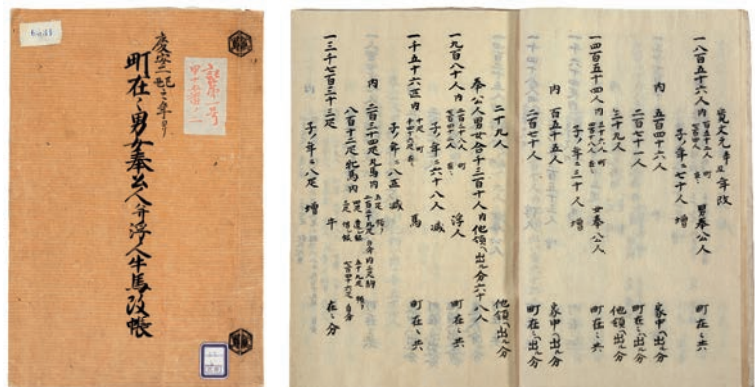
岡山藩領の各郡における村数、男女別の人数、家数を記した帳簿である。展示箇所は集計の丁であり、村数は786ヶ村、家数は5万2913軒、人数は33万5462人(男:17万5660人、女:15万9802人)である。集計の後には領民の職業や他国から奉公に来ている人数も記されており、18世紀初期における岡山藩領民の内実を詳しく知ることができる。



19 慶安二己丑之年ヨリ 町在々男女奉公人并浮人牛馬改帳

豎1冊 (年月日未詳) L1-4 27.0 × 18.3

慶安2~延宝5年(1649~1677)における岡山藩領の奉公人・「浮人」の人数や奉公先を記した帳簿である。「浮人」の意味はやや不明確であるが、決まった居所がない者や、他所から来て日雇いなどに従事していた者などを指すとみられる。展示箇所は寛文元年(1661)の記載箇所である。



20 備前国吉利支丹帳

縦1冊 万治2年(1659)4月25日
P2-106 29.0 × 20.8

吉利支丹(切支丹、キリシタン)として訴えられた岡山藩領民について記された帳簿である。展示箇所では、岡山城下の商人とみられる菓子屋佐右衛門とその妻・娘の取り扱いが記されている。本史料にもみられる幕府老中井上筑後守によって、この時期には吉利支丹の取締が全国的に厳しく行われており、岡山藩においても多くの吉利支丹が弾圧されている。



21 切支丹宗門御改并類族御届

縦1冊 天保9年(1838)10月~元治元年(1864)10月26日
P2-16 28.8 × 20.3



本史料は、切支丹の子孫や類族に関する様々な届の写しをまとめた帳簿である。展示箇所は、17世紀中期に切支丹として摘発された細物屋吉右衛門の子孫である佐吉が、天保10年(1839)12月に82歳で死去したことを記した史料の写しである。佐吉の病死が松平伊予守(岡山藩主池田斉敏)から幕府へと伝えられており、幕府が切支丹の子孫・類族の動向を監視し続けていたことがわかる。

22 寛文九年人改書上ヶ帳

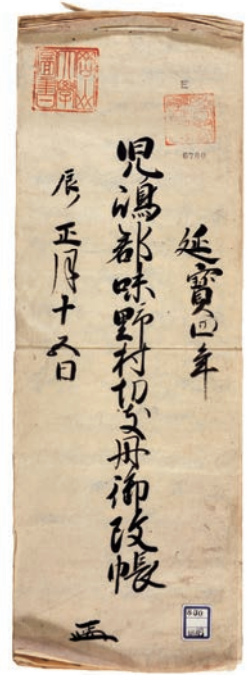
縦1冊 元禄2年(1689)3月12日
荻野家文書 822 25.2 × 19.0

備前国児島郡吹上村(現在の倉敷市下津井吹上)の人別を記した帳簿である。いわゆる「宗門人別改帳」の原型といえる帳簿の1つであり、これは寛文9年(1669)の帳簿が後年に写されたものである。各世帯の当主の名前と男女別の人数、さらに世帯ごとに仏道・神道の別が記されている。



23 児島郡味野村切支丹御改帳

横1冊 延宝4年(1676)正月15日
荻野家文書 830 16.1 × 46.2



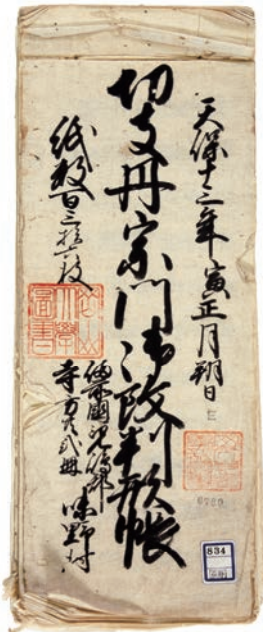
24 児島郡味野村切支丹御改帳

縦1冊 延宝6年(1678)正月15日
荻野家文書 806 29.8 × 19.0



25 切支丹宗門御改判形帳

横1冊 天保13年(1842)正月朔日
荻野家文書 834 14.5 × 38.4

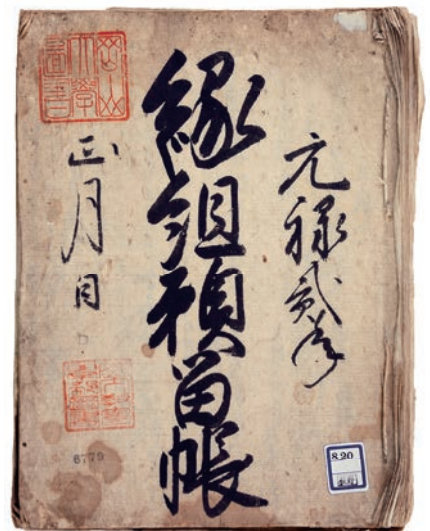


23・24 はともに延宝年間(1673～1680)における備前国児島郡味野村(現在の倉敷市児島味野)の「切支丹御改帳」であるが、前者は横帳、後者は縦帳形式で仕立てられている。岡山藩の「宗門人別改帳」は、徐々に横帳形式のものが増えていくとされているが、この時期はまだ形式が確定していなかった。23・24 はともに各世帯の詳細が記されておらず、末尾に世帯ごとの当主の名前と毎月の押印が合計12個ずつ捺されている。25のような内容・形態が、近世後期の岡山藩における典型的な「宗門人別改帳」であり、各世帯の家族の名前・年齢などが記されている。

26 縁組願留帳

縦1冊 元禄2年(1689)
荻野家文書 820 26.6 × 20.5

縁組みについての願出の概要を書き写した帳簿であり、味野村の村民が関わるものが収録されている。村民の婚姻や養子入りの際には藩に対して願書が提出されており、領主が領民の移動を事細かに把握しようとしていたことがわかる。



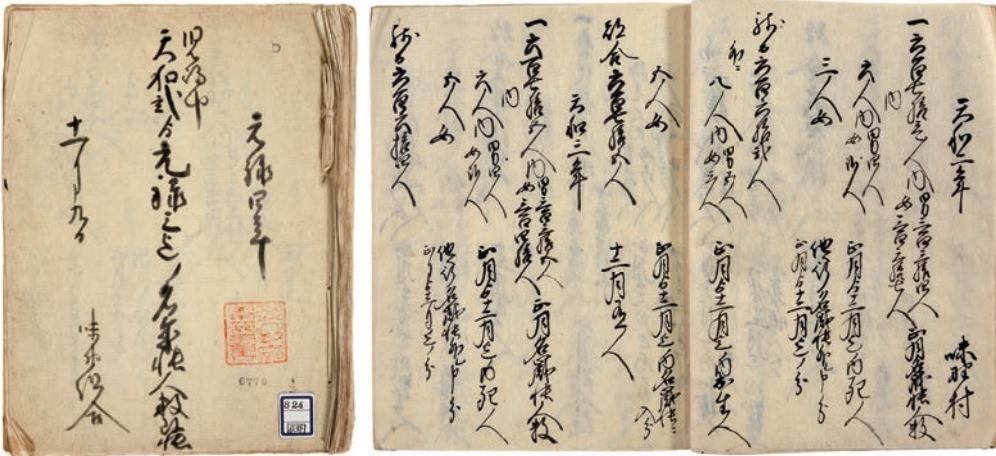
27 見島郡味野村組人生死書上ヶ帳

横1冊 元禄5年(1692)
荻野家文書831 13.5 × 43.0



28 見島郡天和二より元禄三迄ノ名歳帳・人数改帳

竖1冊 元禄4年(1691)11月9日 荻野家文書824 25.6 × 20.6



27・28は見島郡味野村組の村々を対象として、領民の誕生・死亡や人口の推移を記した帳簿である。28の展示箇所では天和2年(1682)・同3年の味野村の状況について記されており、年間での出生人・死人・他所へ行って「名歳帳」から外れた人数などが記されている。

29 〔備中国領分海岸絵図〕

1枚 (年月日未詳) T8-31-2 61.8 × 90.3

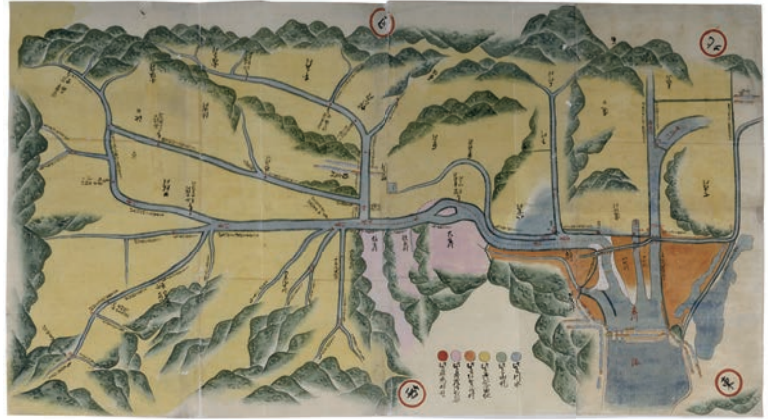
備中国浅口郡の鴨方藩領の村々と沿岸を描いた絵図である。地形や地名だけでなく、近海の深さも距離ごとに記されており、船の航行のための情報が集められていたとみられる。また、新田や塩田が造成されていることもわかる。



30 備中国阿賀崎村周辺絵図

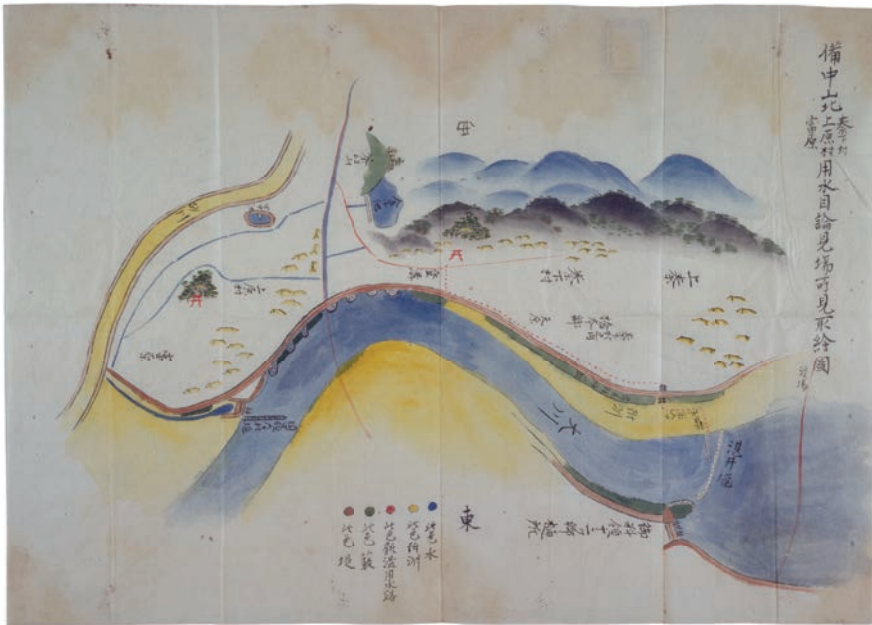
1枚 (年月日未詳) T2-15 71.0 × 130.7

浅口郡の「御領分」村々の用水事情を表した絵図。「御領分」のうち、鴨方藩領と岡山本藩領との区別はつけられていない。貞享元年(1684)の鴨方藩分知以前の状況を示すものか。本川(占見川)の中に他領との境が朱の点線で、村境などが朱の○印で示されている。



31 備中山北秦下村・上原村・富原村用水目論見場所見取絵図

1枚 (年月日未詳) T2-27 31.4 × 44.2



現在の総社市秦・上原・富原近辺の高梁川西岸と同川に設けられた湛井堰を描いた図である。新たに設けられた用水路が赤色の線で示されており、複数の溜池も確認できる。本図の作成経緯は不明だが、秦下・上原・富原の3ヶ村に関わる用水の整備に際して作成されたものとみられる。

32 鴨方村絵図

1枚 (年月日未詳)
T2-31 81.9 × 56.4

備中国浅口郡鴨方村を描いた図である。同村は岡山藩領であったが、寛文12年(1672)に岡山新田藩(鴨方藩)が立藩された際、同藩領となった。幕末期には同藩の陣屋も設置されている。絵図でも街並みが描かれている通り、同村は在郷町であり地域の経済や交通の結節点として機能していた。



33 備中六条院西村絵図

1枚 (年月日未詳)
T2-58 56.9 × 80.9

備中国浅口郡六条院西村（現在の浅口市鴨方町六条院西）を描いた図である。同村は17世紀後期以降鴨方藩領となっている。絵図の南東方向に「八幡宮」（現在の安倉八幡神社とみられる）がみられ、さらにこの南東には瀬戸内海が広がっている。青色で示される池川・用水路や山沿いに多くみられる溜池などにより、農業用水が確保されていたことがうかがえる。

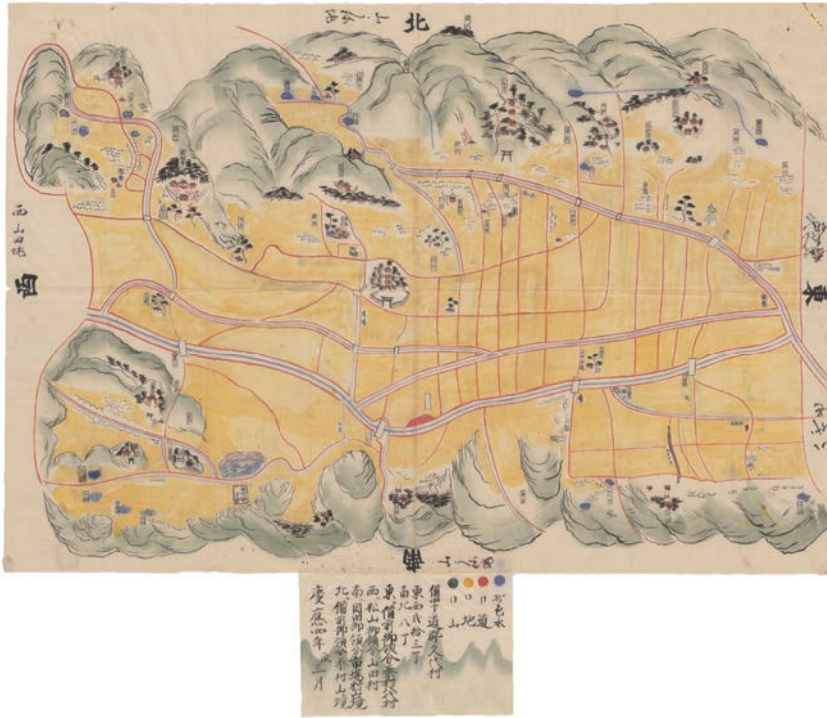


34 〔備中国玉島周辺絵図〕

1枚 (年月日未詳) T8-15 83.1 × 108.6

備中国浅口郡玉島村周辺を描いた絵図である。同村は18世紀初期に丹波亀山藩領と備中松山藩領の相給となり、幕末までこの支配が継続している。町並みや橋、多数の寺社が確認でき、備中国でも有数の港町としての賑わいをうかがうことができる。乙島の土地開発の状況などから、18世紀末以降の様子が描かれた絵図とみられる。





35 〔下道郡久代村絵図〕

1枚 慶応4年(1868)3月
S4-375-33 67.8 × 78.8

岡山藩が備中松山城と同藩領を接管した時に作成されたものとみられる。四至の村名・領主名が付紙に書かれている。この他に集落名や寺社名が詳細に記されており、村からの情報をもとに描かれたか、あるいは村側から提出された絵図であるとみられる。

36 〔哲多郡法曾村絵図〕

1枚 (慶応4年(1868)カ) S4-375-7 29.1 × 37.5

右上に村高(674石7斗1升4合2勺)と「庄屋高島傳五郎」の名前が記されており、35と同じく岡山藩による備中松山藩領接管時に、村からの提出ないし村からの情報をもとに描かれたものであるとみられる。35と描かれ方は異なるが、本絵図にも集落名が詳細に記されており、村内部の状況や景観を知るうえで貴重な史料である。

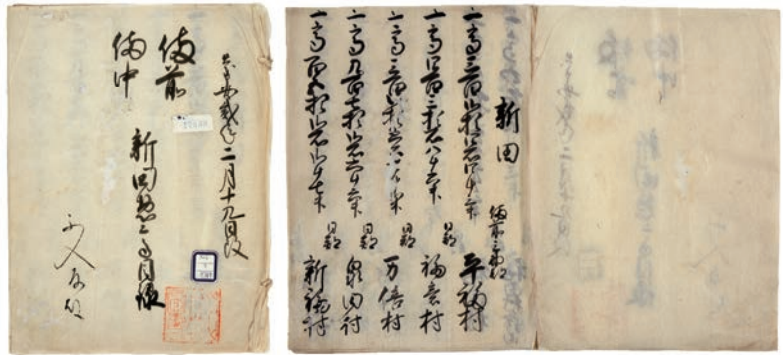


【土地開発と藩政】

37 備前備中新田惣高目録

竪1冊 寛文4年(1664)
B4-9 28.5 × 21.5

「備前三野郡平福村」以下57カ村の「新田」石高が書き上げられており、その総合計は2万5009石余となっている。17世紀中期までに相当の新田開発が進んでいたことがうかがえ、備中領分の篠沖新田・吉岡新田など、まとまった新田の名称も確認できる。本文末に「寛文四年三月廿日」とあり、慶安2年(1649)2月19日に改めた新田目録をこの時書き付けたものである。



38 〔備前国上道郡新田之絵図〕

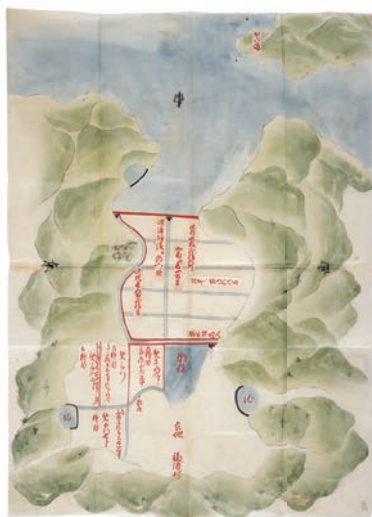
1枚 (年月日未詳) T7-99 79.6 × 94.2

松崎新田の開発計画図である。松崎村の前に朱で堤が示され、「此内今度被仰付候新田」と記した付箋がある。松崎新田は寛文2年(1662)に着工され、翌年完成した。なお、正保4年(1647)に開発された笠井新田・福吉新田や海面新田・円山新田・中山新田が描かれており、上道郡での開発の様子がわかる。

39 〔備前国上道郡倉田・倉富・倉益新田絵図〕

1枚 (年月日未詳) T7-98 80.1 × 110.4

延宝7年(1679)に完成した倉田三新田の絵図。新田地は、東から「倉益」「倉富」「倉田」と命名され、図中では色分けして示されている。最初の入植者は50人で、図中には51戸の藁葺きの家が描かれている。全体の開発面積は271町余り、貞享4年(1687)に行われた検地での総石高は5004石余りであった。



40 〔備前国和気郡福浦村新田絵図〕

1枚 (年月日未詳) T7-106 55.0 × 40.0

備前国和気郡福浦新田を描いた絵図である。同新田は和気郡木谷村が閑谷学校領となるにあたり、村民の移住先として貞享2年(1685)に22町余の新田として完成したものである。なお、備前国福浦一帯は明治以来長く岡山県に属していたが、戦後の1960年代になって越県合併し、現在は兵庫県赤穂市の一部となっている。

41 〔興除新田開発目論見略図〕

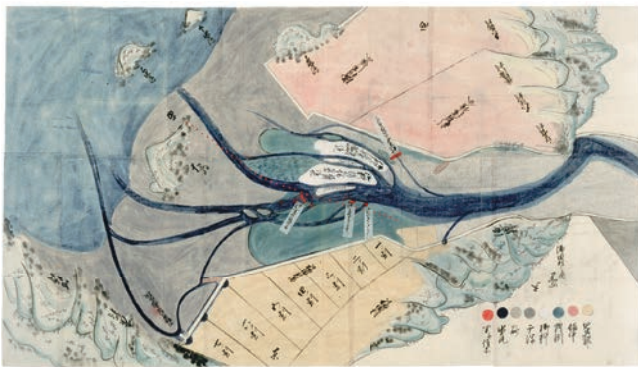
1枚 (年月日未詳) T7-107 122.6 × 136.8

児島内海干潟のうち、「葭草生附洲」(草色)を囲うように朱の点線で堤線が引かれている。興除新田の開発計画を示したもののか。八ヶ郷用水など水路の概略も描かれており、興除新田の開発にあたっては、用水が大きな問題であったことを示している。図中の付紙も、水路や樋に関するものが多い。興除新田は長きにわたる国境争論を経て、文政年間(1818～1830)に開発された。



42 備中松山川流末連島・児島郡之間絵図

1枚 (天明年間〈1781～1788〉頃) T2-8 78.0 × 137.4



江戸時代の松山川(現在の高粱川)は酒津付近で東西に分かれており、本図は東松山川を挟んだ連島方と児島方とによる土地開発を示すものである。児島方と備中連島方の双方から設けられた関(堰)が朱線で示され、福田村地内を示す傍示が朱の○印で示されている。

43 〔備前国児島郡興除新田開墾絵図〕

1枚 (文政年間〈1818～1830〉頃) T7-199 106.8 × 154.2

文政年間(1818～1830)に開発された、興除新田の土地や水利の様子を示す絵図である。児島湾の開発をめぐる岡山藩と備中方との間で幾度も争論が発生しており、そのためもあってか各所に「御境石」と「御高札」がみられる。



44 児島郡福田村新田願書写

縦1冊 正徳6年(1716)2月10日
M1-20 29.0 × 19.2

福田村4ヶ村が、福田村地先の付洲100町歩余りの開発を岡山藩に願い出たもの。差出人は、取り持ちの林村大庄屋九郎兵衛である。潮抜樋・用水樋については藩から申し付けてほしいことや、年貢を免除・軽減する畝下年季などの条件についても願っている。福田古新田の開発がここから始まっており、享保8年(1723)に完成している。



45 備前国児島郡福田沖新開場所絵図

1枚 (嘉永年間〈1848～1853〉頃) T7-105 82.4 × 60.2

天保6年(1835)に福田古新田沖合での新田開発が岡山藩に願い出られており、これによって開発された新田が福田新田である。同新田は嘉永4年(1851)に完成し、翌年に岡山藩による検地が行われた。本史料はその頃の様子を示す絵図であり、東松山川を挟んだ備中・備前の土地開発の様子がうかがえる。



46 [福田新田検地帳]

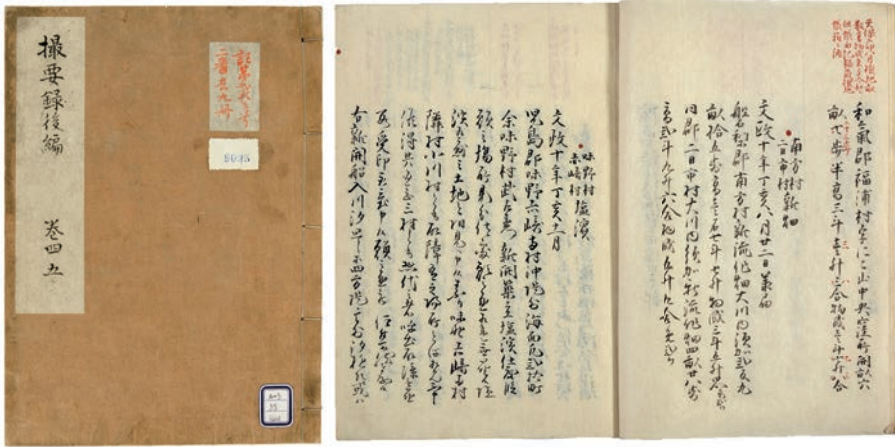
縦3冊 嘉永5年(1852)
B4-1～3 30.6 × 21.9

福田新田の北畝・中畝・南畝それぞれの検地帳である。展示箇所では、南畝の中で植田武右衛門(備中国窪屋郡倉敷村の豪農商)、野崎武左衛門(備前国児島郡味野村)の所持地について、反別(面積)や石高等の情報が記されている。植田家のような遠隔地の有力者も、同新田の土地を多く取得・所持していることがわかる。



47 撮要録後編 卷四五

縦1冊 (明治4年 (1871))
A5-35 26.4 × 19.0



「撮要録」は、岡山藩の留方が同藩の地方支配に関わる史料を編集した冊子である。この後編は明治4年の成立であり、全9巻である(本編は30巻・文政6年(1823)成立)。撮要録の中でも、児島郡の塩田開発に関する記述を展示している。文政10年(1827)に児島郡味野村の武左衛門(野崎家)が野崎浜(同郡味野村・赤崎村)の塩田開発を行っており、これに関する文書の写しである。

48 先祖并御奉公之品書上 野崎武吉郎

縦1冊 明治3年(1870)12月29日
D3-2980 27.6 × 20.2



野崎家は、備前国児島郡味野村に居住した塩田地主である。同家の武左衛門は文政年間(1818～1830)以降に複数の塩田開発を行い、嘉永年間(1848～1853)には福田新田の開発を主導、その功績から同新田5ヶ村の大庄屋に任じられている。本史料は武左衛門の孫武吉郎が記したもので、文政10年(1827)以降の同家の事績が記されている。展示箇所では天保4年～嘉永元年(1835～1848)の事績が書かれており、塩濱と福田新田の開発についても記されている。

49 郷村帳奥新田改出

縦1冊 安政元年(1854)
B4-20 28.0 × 20.3



安政元年(1854)時点での岡山藩領における新田開発地等を集計した帳簿である。「新田」ないし「改出」として、同年までに16万861石余が新たに石高として加わっている。展示箇所では、貞享元年(1684)以降、どの時期に「新田」「改出」の石高があったかが記されており、全体としては18世紀前期までの開発が多かったことがわかる。

【林原美術館 出展資料】

林 1 児島八景画卷

1 卷 江戸時代
邦画 289 27.0 × 576.0



岡山藩に仕えた絵師の長谷川常雄による児島八景を描いた画卷。現在の岡山市、倉敷市、玉野市にわたる児島周辺の景色を描く。八景は「林梅」、「藤戸岩」、「経島樹」、「引並霞」、「鞭木夕陽」、「碁石浪」、「田井月」、「常山松」で構成されており、それぞれの風景に和歌を添えている。長谷川家は代々岡山藩の御用絵師を務めた家柄で、如辰と号した長谷川常雄（?～1757）は父の長谷川常時、木挽町狩野家三代目の狩野周信に学び、三代藩主の池田継政に仕えた。岡山藩主池田家伝来品。

林 2 川口・虫明八景画卷

1 卷 享保11年（1726）
邦画 186 27.5 × 1343.8



岡山市を流れる旭川下流域の各所を描いた川口八景と、現在の瀬戸内市邑久町虫明周辺の風光明媚な風景を描いた画卷。岡山城下から旭川を下って虫明に至る航路は当時の主要な航路であり、現在でも岡山市北区に船頭町・御舟入町など船にまつわる地名が旭川沿いに残る。藩主たちは乗船した際に目にする、画卷に描かれたような風景を愛でながら船旅をしたのであろう。岡山藩主池田家伝来品。

番号	資料名	員数	年代	整理番号	法量(h×w, cm)
【国絵図・郡絵図と藩政】					
1	〔備前国図〕	1幅	〔慶長年間〕(1596～1615)	T1-5	329.0×280.7
2	備前国絵図	1枚	明和2年(1765)11月	T1-2	163.2×199.8
3	備中国御絵図領地入組之図	1枚	元禄2～同6年(1689～1693)頃カ	T1-33	226.0×156.1
4	光政公領地之目録	1通	寛文4年(1664)4月5日	B1-31	40.2×210.4
5	上東郡図	1枚	(17世紀中後期カ)	T2-77	193.0×143.8
6	下道郡図	1鋪	正保2年(1645)6月	T2-94	111.4×72.4
7	和気郡御絵図	1枚	(年月日未詳)	T2-87	188.2×183.8
8	鹿久居島絵図	1枚	(天保年間(1830～1843)カ)	T2-65	52.8×97.4
9	津高郡建部之図	1枚	(年月日未詳)	T2-117	93.4×105.4
10	備前国津高郡建部郷御国絵図	1枚	(幕末維新期カ)	T2-118	54.4×116.1
11	津高郡改出・新田・斗代上帳	竪1冊	貞享元年(1684)5月	B3-2-3	28.4×20.8
12	津高郡口御免帳	竪1冊	明治元年(1868)	B2-26	31.1×22.5
13	邑久郡大手鑑	横半1冊	(万延元年(1860)頃)	B3-107	9.0×20.3
14	〔児島郡図〕	1枚	万治4年(寛文元(1661))5月12日	T2-90	94.4×218.8
15	内海(児島湾)絵図	1枚	(年月日未詳)	T2-67	54.2×120.1
16	児島郡下津井村海面并湊内堀古波戸仕継願上絵図	1枚	(年月日未詳)	T8-12	47.4×99.3
【所領支配と村絵図】					
17	光政公御代中備前備中両国古高帳 四冊	竪2冊	(17世紀中期)	B3-34-1・2	30.7×22.6
18	備前国備中国之内 御郡々村数家数并男女人数 宝永四丁亥歳六月十五日有人改帳	竪1冊	宝永4年(1707)10月23日	L1-16	31.4×22.2
19	慶安二己丑之年ヨリ 町在々男女奉公人并浮人牛馬改帳	竪1冊	(年月日未詳)	L1-4	27.0×18.3
20	備前国吉利支丹帳	竪1冊	万治2年(1659)4月25日	P2-106	29.0×20.8
21	切支丹宗門御改并類族御届	竪1冊	天保9年(1838)10月～元治元年(1864)10月26日	P2-16	28.8×20.3
22	寛文九年人改書上々帳	竪1冊	元禄2年(1689)3月12日	荻野家文書822	25.2×19.0
23	児島郡味野村切支丹御改帳	横1冊	延宝4年(1676)正月15日	荻野家文書830	16.1×46.2
24	児島郡味野村切支丹御改帳	竪1冊	延宝6年(1678)正月15日	荻野家文書806	29.8×19.0
25	切支丹宗門御改判形帳	横1冊	天保13年(1842)正月朔日	荻野家文書834	14.5×38.4
26	縁組願留帳	竪1冊	元禄2年(1689)	荻野家文書820	26.6×20.5
27	児島郡味野村組人生死書上々帳	横1冊	元禄5年(1692)	荻野家文書831	13.5×43.0
28	児島郡天和二より元禄三迄ノ名歳帳・人数改帳	竪1冊	元禄4年(1691)11月9日	荻野家文書824	25.6×20.6
29	〔備中国領分海岸絵図〕	1枚	(年月日未詳)	T8-31-2	61.8×90.3
30	備中国阿賀崎村周辺絵図	1枚	(年月日未詳)	T2-15	71.0×130.7
31	備中山北泰下村・上原村・富原村用水日論見場所見取絵図	1枚	(年月日未詳)	T2-27	31.4×44.2
32	鴨方村絵図	1枚	(年月日未詳)	T2-31	81.9×56.4
33	備中六条院西村絵図	1枚	(年月日未詳)	T2-58	56.9×80.9
34	〔備中国玉島周辺絵図〕	1枚	(年月日未詳)	T8-15	83.1×108.6
35	〔下道郡久代村絵図〕	1枚	慶応4年(1868)3月	S4-375-33	67.8×78.8
36	〔哲多郡法曾村絵図〕	1枚	(慶応4年(1868)カ)	S4-375-7	29.1×37.5
【土地開発と藩政】					
37	備前備中新田惣目録	竪1冊	寛文4年(1664)	B4-9	28.5×21.5
38	〔備前国上道郡新田之絵図〕	1枚	(年月日未詳)	T7-99	79.6×94.2
39	〔備前国上道郡倉田・倉富・倉益新田絵図〕	1枚	(年月日未詳)	T7-98	80.1×110.4
40	〔備前国和気郡福浦村新田絵図〕	1枚	(年月日未詳)	T7-106	55.0×40.0
41	〔興除新田開発目論見略図〕	1枚	(年月日未詳)	T7-107	122.6×136.8
42	備中松山川流末連島・児島郡之間絵図	1枚	(天明年間(1781～1788)頃)	T2-8	78.0×137.4
43	〔備前国児島郡興除新田開墾絵図〕	1枚	(文政年間(1818～1830)頃)	T7-199	106.8×154.2
44	児島郡福田村新田願書写	竪1冊	正徳6年(1716)2月10日	M1-20	29.0×19.2
45	備前国児島郡福田沖新開場所絵図	1枚	(嘉永年間(1848～1853)頃)	T7-105	82.4×60.2
46	〔福田新田検地帳〕	竪3冊	嘉永5年(1852)	B4-1～3	30.6×21.9
47	撮要録後編 卷四五	竪1冊	(明治4年(1871))	A5-35	26.4×19.0
48	先祖并御奉公之品書上 野崎武吉郎	竪1冊	明治3年(1870)12月29日	D3-2980	27.6×20.2
49	郷村帳奥新田改出	竪1冊	安政元年(1854)	B4-20	28.0×20.3
【林原美術館】					
林1	児島八景画卷	1巻	(江戸時代)	邦画289	27.0×576.0
林2	川口・虫明八景画卷	1巻	享保11年(1726)	邦画186	27.5×1343.8

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム
令和元	武家と天皇	2019年10月19日～11月4日	岡山シティミュージアム
令和2	岡山・大坂と海の道	2020年10月31日～11月15日	岡山シティミュージアム
令和3	岡山藩と武芸	2021年10月30日～11月14日	岡山シティミュージアム
令和4	岡山城と人々の暮らし	2022年10月22日～11月20日	岡山シティミュージアム
令和5	岡山藩の郡・村と藩政	2023年10月7日～11月5日	岡山シティミュージアム

記念講演会

年度	記念講演会	記念講演会講師 (役職は当時)	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井謙治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 三宅正浩	2017年11月12日

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期 日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2018年11月10日
令和元	『大嘗祭』の誕生—古代の皇位継承儀礼の生成と変異—	専修大学名誉教授 荒木敏夫	2019年10月26日
令和2	西国の武士、大坂に出張する—蔵屋敷と大坂城加番—	兵庫県立歴史博物館長 藪田貫	2020年11月7日
令和3	戦国合戦図屏風の世界—池田家にかかわる作品を中心に—	茨城大学人文社会科学部人間文化学科教授 高橋修	2021年11月6日
令和4	近世日光山と諸国の東照宮—建築とまつり—	筑波大学人文社会系准教授 山澤学	2022年11月12日
令和5	近世の地域社会と藩政—宗門改と人の把握—	京都府立大学文学部歴史学科教授 東昇	2023年10月28日

パネルディスカッション

年度	パネルディスカッション	期 日
平成23	国絵図復活	2011年10月23日
	東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 〔司会〕東京大学大学院准教授 中村雄祐	

令和5年度企画展 池田家文庫絵図展 岡山藩の郡・村と藩政

発行日／令和5年10月7日

主 催／岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム

共 催／林原美術館

発 行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

印 刷／株式会社アネスト



OKAYAMA
UNIVERSITY

岡山大学学都基金

—地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する—



「岡山大学学都基金」では、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実を図るとともに、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学の進展等に資することを目的として、平成27年4月から募金活動を行っております。

現在、大学の運営基盤を支える運営費交付金は毎年減少傾向にあり、本学を取り巻く環境は大変厳しくなっております。卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、「岡山大学学都基金」についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



リサイクル募金によるご寄付も受付中

お問い合わせ

岡山大学学都基金室(総務・企画部総務課)

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7009 E-mail: kikin@adm.okayama-u.ac.jp
電話受付: 9:00-17:00(土・日・祝日除く)

寄付金の申込方法

左の連絡先に、ご住所とお名前をお知らせください。折り返しお送りするパンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。本学へのご寄付は、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、ホームページをご覧ください。



学都基金ホームページ

岡山大学学都基金

検索

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>



池田家文庫資料叢書



岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編 (編集代表：倉地克直)

A5判 / クロス装・ケース付

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。

池田家文庫資料叢書 3

「御留帳評定書」上・下巻 各19,800円(税込)

【上巻】本文 605頁、解説 19頁 【下巻】本文 558頁

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録した、当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料です。

池田家文庫資料叢書 2

「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

【上巻】本文 598頁、解説 22頁 11,000円(税込)

【下巻】本文 749頁、解説 25頁 12,222円(税込)

池田家文庫資料叢書 1

「御留帳御船手」上・下巻 各7,700円(税込)

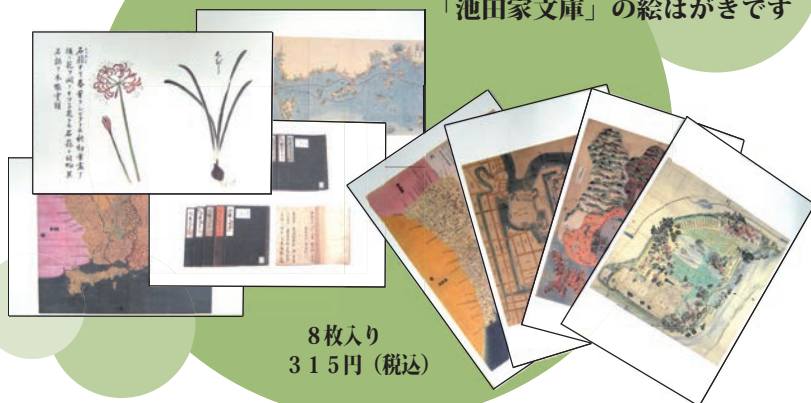
【上巻】本文 627頁、解説 9頁 【下巻】本文 716頁



※電子書籍版(機関向け)が発売されました。詳しくは弊会HP <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/> をご覧ください。

池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料「池田家文庫」の絵はがきです



8枚入り
315円(税込)

※絵はがきは出版会に直接お申し込みください
書店での販売はございません



8枚入り
315円
(税込)

岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせください
メールでのご注文はこちらへ → okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 |

検索

<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>